佳作

「すごいおじいちゃん」

広島県
世羅町立東小学校 六年
近藤 大介

おじいちゃんは、いろんな事を知っていて、何でも教えてくれます。ぼくは、物を作るのが好きで、作っていたらいろんなアドバイスをしてくれます。

実は、ぼくのおじいちゃんは大工さんです。いろんな人の家をたくさん建てたそうです。山の木のことには、とてもくわしくて、ぼくが質問したことは何でも答えてくれます。

おじいちゃんの最後の大きな大工の仕事はぼくの家でした。自分で図面を書いて、山へ行って、ひいおじいちゃんや、その前のおじいちゃんが植えて手入れしておいてくれた木を、「この木は家の、どの部分に使える。」と考えながら、たくさん木を切り出してきたそうです。そして、その木を一年かけて天日でかわかして、次は製材所に持って行って製材します。木の木目とか、くせを考えながらするそうです。ぼくも木の皮をむぐのを手伝いました。

ぼくが小学校一年の春、古い家をこわして、新しい家を基礎から作るところを見てきました。ぼくたちも、できる手伝いはしました。夏に、家を建てる「たちまい」というのがありました。三日間かかって柱をたて、ぼくもはしごで二階の部分にまであがって、おもちゃ、お菓子を投げました。友達がたくさん拾いにきてくれて、うれしかったです。

それから、昔ながらの土壁にして、またしっかり日にちをかけて、かわかしていきます。土壁は呼吸をするので、日本のような湿気の多い季候にはとてもよいそうです。壁の板には、と料をぬります。これも少しだけ手伝わせてもらいました。

ひとつひとつ、完成していくようすを見ながら、おじいちゃんは本当にすごいなと思いました。げた箱や、机や、いすまで作ってくれました。

おじいちゃんは、

「ご先祖様が、わしらのために木を植え、手入れして残してくれていたおかげで、こうして家を建てることもできたんぞ。わしらも今度は、子供や孫、そのまた孫達のために山の手入れをしていかんといけん。」

と言っていました。

ぼくは、そうなんだ、昔の時代からずっと続いてきているんだと思うと、すごいことだと思いました。ちなみに前の古い家も百年近く前に建てられた家でした。

ぼくの家は、おじいちゃんが作ったひの木の自まんの家です。

「おじいちゃんありがとう。」

家をきれいにして、大事に使っていきたいです。そして、ぼくも、おじいいちゃんのように、物を作る仕事がしたいと思います。